

## 安全データシート

作成 2010年7月23日

改訂 2024年4月1日

## 1. 化学品及び会社情報

製品の名称	アサヒボンド556M 主剤
会社名称	アサヒボンド工業株式会社
住所	東京都板橋区大谷口北町3-7
担当部門	営業部
電話番号	(03)3972-4929
FAX番号	(03)3972-4583
推奨用途	コンクリートひび割れの注入補修に限る。
整理番号	10151

## 2. 危険有害性の要約

## 化学品のGHS分類

物理化学的危険性	区分に該当しないまたは分類できない	
健康に対する有害性	急性毒性(経口)	区分に該当しない
	皮膚腐食性/刺激性	区分2
	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分2
	皮膚感作性	区分1
	生殖細胞変異原性	区分2
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	区分2
	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	分類できない
	特定標的臓器毒性(反復ばく露)	分類できない
	誤えん有害性	分類できない
環境に対する有害性	水生環境有害性 短期(急性)	区分2
	水生環境有害性 長期(慢性)	区分2

\* 上記で記載がない危険有害性は、区分に該当しないか分類できない。

## GHSラベル要素

絵表示



注意喚起後

警告

危険有害性情報

(H315) 皮膚刺激  
 (H319) 強い眼刺激  
 (H317) アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ  
 (H341) 遺伝性疾患のおそれの疑い  
 (H361) 生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い  
 (H401) 水生生物に毒性

(H411) 長期継続的影響によって水生生物に毒性

注意書き

【安全対策】

- (P264) 取扱い後は手をよく洗うこと。
- (P280) 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
- (P261) 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。
- (P272) 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
- (P201) 使用前に取扱説明書を入手すること。
- (P202) 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- (P273) 環境への放出を避けること。

【応急措置】

- (P302+P352) 皮膚に付着した場合：多量の水と石鹸で洗うこと。
- (P332+P313) 皮膚刺激が生じた場合：医師の診察/手当てを受けること。
- (P362+P364) 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
- (P305+P351+P338) 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合には外すこと。その後も洗浄を続けること。
- (P337+P313) 眼の刺激が続く場合：医師の診察/手当てを受けること。
- (P333+P313) 皮膚刺激又は発しんが生じた場合：医師の診察/手当てを受けること。
- (P308+P313) ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診察/手当てを受けること。
- (P391) 漏出物を回収すること。

【保管】 (P405) 施錠して保管すること。

【廃棄】 (P501) 内容物や容器は国・地方の許可を受けた産業廃棄物業者に委託し廃棄すること。

3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別	混合物		
化学名又は一般名	ビスフェノールA型液状エポキシ樹脂		
危険有害成分	濃度(%)	CAS 番号	官報公示整理番号
ビスフェノールA型液状エポキシ樹脂	55～60	25068-38-6	(7)-1279
1,2-エポキシ-3-(トリメチルプロパノ	10～15	非公開	既存化学物質
エポキシ化合物	20～30	非公開	既存化学物質
シリカ	2～5	7631-86-9	(1)-548

4. 応急措置

吸入した場合	被災者を空気の新鮮な場所に移すこと。 呼吸が不規則になった場合又は停止した場合には、人口呼吸を施すこと。
皮膚に付着した場合	汚染された衣類と靴を脱ぎ、直ちに多量の水と石鹸で洗うこと。皮膚の炎症やアレルギー性反応が起きた場合には、医師の診察を受けること。
眼に入った場合	直ちに多量の水で洗浄する。最初の洗浄後、コンタクトレンズを外し、少なくとも15分間は洗浄を続けること。
飲み込んだ場合	口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。直ちに医師の診断/手当てを受けること。
急性症状及び遅延性症状の最も重要な兆候症状	症状に応じて治療すべきである。

応急措置をする者の保護に必要な注意事項 救助者は保護具を着用し衣類や手に内容物がつかないようにする。

## 5. 火災時の措置

適切な消火剤 粉末消火剤、通常の泡消火剤、二酸化炭素、乾燥砂、土、噴霧水。

使ってはならない消火剤 棒上水

火災時の特有の危険有害性 不完全燃焼及び熱分解により、一酸化炭素、二酸化炭素、各種炭化水素、アルデヒド及び煤煙などの毒性ガスが発生する恐れがある。

特有の消火方法

周辺火災の場合 移動可能な場合、容器、梱包及び周辺に散水し冷却する。

着火した場合 火元（燃焼源）を断ち適切な消火剤を用いて風上から消火する。

消火を行う者の特別な保護具及び予防措置 必要に応じて自給式呼吸器等を着用すること。

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

人員を安全な区域に避難させること。適切な保護具を使用すること。その区域を換気すること。

屋内の場合、処理が終わるまで適切な換気を行う。

漏出した場所の周辺にはロープを張る等して、関係者以外の立入りを禁止する。

環境に対する注意事項 漏出物が河川、水路等公共水路に流れ込むのを防止する。漏出物は密閉できる容器に回収し、安全な場所に移す。

封じ込め及び浄化の方法及び機材 危険でなければ漏れを止める。残留物は土、砂等に吸着させて密閉可能な容器に回収する。

二次災害の防止策 付近の着火源を速やかに取り除く。環境規則に従って汚染された物体及び区域を十分に浄化すること。

## 7. 取り扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

安全取扱注意事項 取扱い後はよく洗うこと。

接触回避 「10. 安定性及び反応性」を参照。

衛生対策 取扱い後は、顔等をよく洗い、うがいすること。

保管

安全な保管条件 施錠し換気のよい場所で容器を密閉し保管する。容器は直射日光を避け、出来る限り室内の涼しい場所に貯蔵する。特にアミン化合物との接触を避ける。火気厳禁。

安全な容器包装材料 鋼（スチール）製容器（缶、ドラムなど）

## 8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度

日本産業衛生学会(2018年度版)

シリカ(非晶性)

第3種粉じん 2mg/m<sup>3</sup>(吸入性粉じん) 8mg/m<sup>3</sup>(総粉じん)

設備対策

貯蔵ないし取扱う作業場には身体洗浄及び洗眼のための設備を設置する。

火花を発生させない工具及び防爆型の器材を使用すること。

#### 保護具

- 呼吸器の保護具 適切な呼吸保護具を着用すること。  
 手の保護具 適切な保護手袋を着用すること。  
 眼、顔面の保護具 適切な眼の保護具を着用すること。  
 皮膚及び身体の保護具 適切な保護衣、保護靴又は長靴を着用すること。

特別な注意事項 火気厳禁、皮膚、眼への接触を避ける。取扱い後は、洗顔、うがいをする。

### 9. 物理的及び化学的性質

#### 物理状態、色

- 臭い 僅かなエーテル臭  
 融点/凝固点 データなし  
 沸点又は初留点及び沸騰範囲 データなし  
 可燃性 可燃性である。  
 引火点 180°C (推定値)  
 自然発火点 データなし  
 分解温度 データなし  
 pH データなし、非水系である。  
 動粘性率 データなし  
 溶解性 成分エポキシ樹脂はトルエン、キシレン、ケトン類の有機溶剤に可溶。  
 成分のシリカは有機溶剤、水に不溶。  
 n-オクタノール/水分配係数(log 値) データなし  
 蒸気圧 データなし  
 密度及び/又は相対密度 密度 1.13~1.17 (23°C)  
 粒子特性 データなし

### 10. 安定性及び反応性

- 反応性 エポキシ樹脂硬化剤(アミン系化合物、チオール系化合物、酸無水物、フェノール樹脂類)  
 化学的安定性 通常の条件下で安定である。  
 危険有害性反応可能性 エポキシ樹脂硬化剤(アミン系化合物、チオール系化合物、酸無水物、フェノール樹脂類)、  
 強アルカリ類、強酸類、強酸化剤、重合開始触媒。  
 避けるべき条件 継続的な高温状態(35°C以上)、低温状態(5°C以下)。  
 混合危険物質 エポキシ樹脂硬化剤(アミン系化合物、チオール系化合物、酸無水物、フェノール樹脂類)、  
 強アルカリ類、強酸類、強酸化剤、重合開始触媒との接触。  
 危険有害な分解性生物 一酸化炭素、二酸化炭素、低分子有機化合物(化学構造不明)。

### 11. 有害性情報

- 急性毒性(経口) 区分に該当しない  
 ビスフェノールA型液状エポキシ樹脂 ラット LD50 11,400mg/kg  
 エポキシ化合物 データなし  
 シリカ(非晶性) ラット LD50 >5,000mg/kg

皮膚腐食性/刺激性	皮膚刺激(区分2) ビスフェノールA型液状エポキシ樹脂 エポキシ化合物	区分2皮膚刺激 データなし
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 強い眼刺激(区分2)	ビスフェノールA型液状エポキシ樹脂 エポキシ化合物	区分2強い眼刺激 データなし
呼吸器感作性又は皮膚感作性		
呼吸器感作性	分類できない	
皮膚感作性	アレルギー皮膚反応を起こすおそれ(区分1)	
生殖細胞変異原性	遺伝性疾患のおそれの疑い(区分2)	
発がん性	分類できない エポキシ化合物 シリカ(非晶性)	データなし 分類できない(IARC 3 2012)
生殖毒性	生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い(区分2) ビスフェノールA型液状エポキシ樹脂 エポキシ化合物	データなし データなし
特定標的臓器毒性(単回ばく露) 分類できない	エポキシ化合物	データなし
特定標的臓器毒性(反復ばく露) 分類できない		
誤えん有害性	分類できない	

## 1 2. 環境影響情報

### 生態毒性

水生環境有害性 短期(急性)	水生生物に毒性(区分2) ビスフェノールA型液状エポキシ樹脂 エポキシ化合物 シリカ(非晶性)	甲殻類材ニジソ EC50(48時間)1.7mg/L 魚類(96時間) >1000mg/L データなし データなし
水生環境有害性 長期(慢性)	長期継続的影響によって水生生物に毒性(区分2) 区分は原料メーカー報告による。	
残留性・分解性	ビスフェノールA型液状エポキシ樹脂 エポキシ化合物 シリカ(非晶性)	難分解性: BOD 分解度 0% データなし データなし
生態蓄積性	ビスフェノールA型液状エポキシ樹脂 エポキシ化合物 シリカ(非晶性)	低濃縮性: BCF < 42 データなし データなし
土壌中の移動性	ビスフェノールA型液状エポキシ樹脂 エポキシ化合物	データなし データなし
オゾン層への有害性	本製品成分はモントリオール議定書の付属書にリストされていない。	

## 1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物	廃棄の前に可能な限り無害化、安定化の処理を行い危険有害性のレベルの低い状態にする。
汚染容器および包装	容器を清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は内容物を完全に除去すること。

## 1 4. 輸送上の注意

国連番号	3 0 8 2
品名 (国連輸送名)	環境有害物質 (液体)
国連分類	クラス 9
容器等級	III
海洋汚染物質	該当
国内規制	
陸上輸送	消防法に従う。
海上輸送	船舶安全法に定める運送方法に従う。
航空輸送	航空法に定める運送方法に従う。
特別の安全対策	保護具、消火器を携帯する。容器に漏れの無いことを確認し、転倒、落下、破損が無いよう積載し荷崩れ防止を確実にを行う。

## 1 5. 適用法令

消防法	第 4 類引火性液体第三石油類非水溶性 危険等級 III
化審法	優先評価化学物質を含む。 <span style="float: right;">ビ`スフェノール A 型液状エポキシ樹脂</span>
化学物質管理促進法 (PRTR 法)	1, 2-エポキシ-3-(トリロキシ)プロパン (含有量 14%、第 2 種指定化学物質)
劇物毒物法	非該当
労働安全衛生法	
名称等を通知すべき有害物質	ビ`スフェノール A 型液状エポキシ樹脂
名称等を表示すべき有害物質	ビ`スフェノール A 型液状エポキシ樹脂
皮膚等障害化学物質	ビ`スフェノール A 型液状エポキシ樹脂
変異原性が認められた物質	ビ`スフェノール A 型液状エポキシ樹脂 (平成 9 年 12 月 24 日労働基準局長通達 基発第 770 号の 2) 1, 2-エポキシ-3-(トリロキシ)プロパン (法第 57 条の 5 労働基準局長通達)
感作性物質の指定	ビ`スフェノール A 型液状エポキシ樹脂 (平成 8 年 3 月 29 日労働基準局長通達 基発第 182 号)
疾病化学物質の指定	ビ`スフェノール A 型液状エポキシ樹脂 (第 75 条第 2 項、施行規則第 35 条別表第 1 の 2 第 4 号 1・昭 53 労告 36 号)
船舶安全法	危規則告示別表第 1 (有害物質) 容器等級 III
海洋汚染防止法	有害液体物質 (X 類物質 ビ`スフェノール A エピ`クロヒドリン樹脂)
航空法	施行規則告示別表第 1 (有害性物質) 等級 III
輸出貿易管理令	該当する (キャッチオール規制対象品)。

## 1 6. その他の情報

JAIA-005385 F☆☆☆☆登録製品です。

参考文献 1) JIS Z 7253 (2019)

- 2) 原料メーカー発行の安全性データシート
- 3) 日本化学工業会「緊急時応急措置指針」

「記載内容の取扱い」

記載内容は現時点で入手できた資料・情報・データ等に基づいて作成しておりますが、含有量、物理・化学的性質、危険・有害性等に関しては、いかなる保障をなすものではありません。また、注意事項は通常を取扱いを対象としたものなので特殊な取扱いの場合には、用途・用法に適した安全策を実施の上ご利用下さい。